

「首尾一貫感覚 (SOC) に伴う自己観についての調査」報告

—質問紙調査協力のお礼—

おかげさまで、分析に必要な人数分のデータを集めることができ、無事に調査を終えることができました。ご協力いただき、ありがとうございました。

以下、本調査の概要と簡素ながら結果の報告です。

調査の目的 1：SOC に伴う自己観を明らかにすること

- ・本調査では、SOC と、SOC の理解を深めるために有効であると考えられる自己観との関係を検討する。本調査では日本における SOC を理解する上で重要と考えられる「相互独立的-相互協調的自己観」(高田, 2000), 「恩恵享受的自己感」(中間, 2013) との関連を検討する。また、SOC と「仮想的有能感」(Hayamizu et al., 2004) との関係を検討することにより、SOC における有能感 (効力感) は他者を見下すことによる仮想的なものではないかどうかの知見を得る。

調査の目的 2：SOC が抑うつに対して示す効果の独自性を検証すること

- ・SOC が抑うつ (邦訳版 CES-D：島ら, 1985) と主観的幸福感 (曾我部・本村, 2010) に示す効果の独自性を検証するため、媒介要因として「自尊感情」(桜井, 2000) と「恩恵享受的自己感」を取り上げ、この2つを統制した上でも、SOC が抑うつと幸福感に対して独自の効果を持つかどうかを検証する。
- ・これまでのところ、「人格特性的自己効力感 (三好, 2003)」と「基本的信頼感 (谷, 1996)」(Isowa, 2016) 「自己の好ましさ」(磯和・三宮, 2016) を統制した上でも、SOC は抑うつに対して抑制的に働くことが示されている。それだけではなく、「人格特性的自己効力感」・「基本的信頼感」が持つ抑うつに対する抑制的な効果は、SOC によって完全に媒介されていた。

調査結果の図表

Table 1 各変数の尺度得点

	M	SD	M-SD	M+SD	Range
SOC	3.92	.71	3.20	4.63	1-7
有意味感	4.28	.94	3.33	5.22	1-7
把握可能感	3.66	.89	2.77	4.55	1-7
処理可能感	3.88	.97	2.90	4.85	1-7
主観的幸福感	4.81	1.08	3.73	5.89	1-7
相互独立的自己観	4.27	.88	3.39	5.14	1-7
個の認識・主張	4.17	1.01	3.16	5.18	1-7
独断性	4.33	.93	3.40	5.26	1-7
相互協調的自己観	5.03	.75	4.27	5.78	1-7
他者への親和・順応	5.01	.76	4.26	5.77	1-7
評価懸念	5.05	1.03	4.02	6.07	1-7
自尊感情	2.65	.61	2.04	3.25	1-4
恩恵享受的自己観	3.33	.55	2.78	3.88	1-4
仮想的有能感	2.68	.66	2.02	3.34	1-5
抑うつ	15.62	9.29	6.33	24.91	1-4

Table 2 SOCと各変数との相関

	SOC	有意味感	把握可能感	処理可能感
主観的幸福感	.481 ***	.519 ***	.280 ***	.320 ***
相互独立的自己観	.377 ***	.299 ***	.318 ***	.244 **
個の認識・主張	.425 ***	.403 ***	.319 ***	.257 ***
独断性	.282 ***	.176 *	.267 ***	.196 **
相互協調的自己観	-.448 ***	-.063	-.485 ***	-.450 ***
他者への親和・順応	-.321 ***	-.009	-.371 ***	-.330 ***
評価懸念	-.466 ***	-.104	-.479 ***	-.460 ***
自尊感情	.590 ***	.538 ***	.359 ***	.471 ***
恩恵享受的自己観	.177 *	.409 ***	-.008	.034
仮想的有能感	-.291 ***	-.287 ***	-.151 *	-.242 **
抑うつ	-.544 ***	-.530 ***	-.333 ***	-.400 ***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

調査結果の概要 (Table 1)

- ・ 先行研究の結果はほぼ再現された。
- ・ 先行研究と調査結果の比較から、調査対象者は「SOC が若干低い一般的な大学生」であると判断された。

調査目的 1 に関わる結果

- ・ SOC が高い者は「相互独立的自己観」を持ち、「相互協調的自己観」を持っていない傾向にある。
- ・ SOC の下位因子別に見ると、「相互協調的自己観」との関係の仕方に特徴が見られた。
 - 「相互独立的自己観」は、3 下位因子全て正の相関が見られ、SOC 全体との関係が明白であった。
 - 「相互協調的自己観」に関しては、物事に対する自己の判断の基盤となりうる「把握可能感」と「処理可能感」に関しては負の相関が見られたのに対し、物事に対する動機づけの要因と考えられる「有意味感」に関しては、相関を示さなかった。このことから、他者に依拠した自己観を持っている者は、「把握可能感」・「処理可能感」といった感覚をもちづらいが、その自己観は人生に対して「有意味である」と感じることは関係しないと考えられた。
- ・ SOC のうち「有意味感」が高い者は、「恩恵享受的自己感」を持っている傾向にある。
 - 「自分は恵まれている」といった感覚は、身の回りで起こることは有意味であるという感覚を導くが、それが身の回りで起こることは把握・対処が可能であるという感覚とは繋がらないと考えられた。
- ・ SOC が高い者は、「自尊感情」が高く、「仮想的有能感」を持っていない傾向にある。
 - ・ 有能感の 4 類型では、SOC が高い者は最も適応的な「自尊型」に分類される者が多いことが示された。
- ・ 自己観の組み合わせによる、SOC に対する交互作用は確認されなかった。

調査目的 2 に関わる結果

- ・ SOC を説明変数、各自己観を調整変数、抑うつを目的とした共分散構造分析を行った結果、抑うつに対する SOC の効果は $\beta = -.27$ ($p < .001$) で有意な値を示した。このことから、「自尊感情」を含む各自己観を考慮した上でも、SOC が抑うつに対して示す効果の独自性が確認された。
- ・ SOC を説明変数、各自己観を調整変数、主観的幸福感を目的とした共分散構造分析を行った結果、主観的幸福感に対する SOC の効果は有意ではなかった。主観的幸福感に対して有意な効果を示した「自尊感情」と「恩恵享受的自己感」のいずれか、あるいは両方が、SOC が幸福感に及ぼす影響を媒介していると判断し、媒介分析を行った。その結果、「自尊感情」が SOC と主観的幸福感を完全に媒介していた。

== 【引用・参考文献】 =====

■ Hayamizu, T., Kino, K., Takagi, K., & Tan, E. H. (2004). Assumed-competence based on undervaluing others as a determinant of emotions: Focusing on anger and sadness. *Asia Pacific Education Review*, 5(2), 127-135. ■ Isowa, S. (2016). Effect of the Sense of coherence is for depression and subjective-happiness-feeling, what is mediated by generalized self-efficacy and sense of basic trust. 31st International Congress of Psychology ■ 磯和壮太郎・三宮真智子 (2016). 大学生の自己観・世界観の好ましさと首尾一貫感覚・抑うつとの関連—20 答法を用いた自己観・世界観の好ましさの評定— 日本教育心理学会第 58 回総会発表論文集, 58, 627 ■ 三好昭子 (2003). 主観的な感覚としての人格特性的自己効力感尺度 (SMSGSE) の開発 発達心理学研究, 14(2), 172-179. ■ 中間玲子. (2013). 自尊感情と心理的健康との関連再考. 教育心理学研究, 61(4), 374-386. ■ 桜井茂男 (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, 12, 65-71. ■ 曾我部佳奈・本村めぐみ (2010). 青年期における大学生の主観的幸福感—その影響要因の探索に向けて— 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学, 60, 81-87. ■ 高田利武 (2000). 相互独立的-相互協調的自己観尺度に就いて 総合研究所所報, (8), 145-163.